

<ご存じですか?>

医療費の自己負担を軽減

ジェネリック医薬品

最近、TVコマーシャルでもよく耳にするようになった「ジェネリック医薬品」。どういう薬のことか、ご存じですか？ この春の医療制度改革を受けて、一般の皆さまにも急速に身近になっている「ジェネリック医薬品」についてご紹介します。



したが、2006年4月に医療制度が改革されたことで、患者さんが、ジェネリック医薬品を選べる時代になりました。

Q ジェネリック医薬品とは、
どういう意味ですか？

A これまで一般に「医薬品」と呼ばれていたものは、新薬つまり新しく開発された薬（先発医薬品）のことを指していました。新薬は新しい薬ですから開発までには莫大な費用や時間がかかっており、当然、価格も高くなります。これに対し、ジェネリック医薬品は、特許期間が切れた薬を他の製薬メーカーが、同じ有効成分で製造販売する後発医薬品のことです。開発コストがかからない分、新薬の2～7割程の低価格で販売される点が特徴です。

Q なぜ、
急に注目されるようになったのですか？

A ジェネリック医薬品は価格が安いので、上手に活用することで患者さんの自己負担を軽くすることができます。また、国民医療費の削減にもつながります。ジェネリック医薬品は、欧米ではすでに一般的で、処方薬の過半数を占めるとされています。日本では、これまで制度の関係から利用が遅れていま



Q 新薬とジェネリック医薬品
は、全く同じなのですか？

A 新薬とジェネリック医薬品は、有効成分は同じですが、製造工程や工場が異なりますので全く同じではありません。添加物が異なる場合もあり、その違いを心配する声もあれば、一方で、後発の利点を生かし服用しやすく改良したジェネリック医薬品もあります。ジェネリック医薬品の安全性を守るうえで、国により「品質再評価」も実施されています。

Q 病院での薬のもらい方も
変わったのですか？

A 2006年4月から処方箋に「後発医薬品への変更可」という欄が設けられました。この欄に医師の署名等があれば、ジェネリック医薬品に変更して良いということになります。ジェネリック医薬品を希望する方は、そのことを医師に伝え医師とよく相談してください。医師が認めた場合は、調剤薬局にあるジェネリック医薬品に変更になります。ジェネリック医薬品を利用するかどうかは、患者さま次第です。「高くても(?) 使い慣れた薬が良い」方や「同じ成分なら、安い方が嬉しい」方など、いろいろなお考えがあることでしょう。「ジェネリック医薬品」にご興味のある方は、医師、薬剤師にお気軽にご相談ください。